

第 259 回一関市教育委員会定例会 会議録

1 開催日時

開会 令和6年1月24日(水)午後1時30分

閉会 令和6年1月24日(水)午後3時05分

2 会議の場所

一関市役所花泉支所 202 会議室

3 出席者

教育長 時 枝 直 樹

委員 伊 藤 一 志

委員 佐 藤 一 伯

委員 桂 島 加奈子

委員 大 浪 友 子

4 会議に出席した関係者及び職員

教育部長 及 川 和 也

一関図書館長 藤 倉 忠 光

教育部次長兼学校教育課長 八 木 浩 司

教育総務課長 遠 藤 実

文化財課長兼骨寺荘園室長 氏 家 克 典

一関市博物館次長 佐々木 修 路

いきがづくり課長 伊 藤 信 子

教育総務課庶務係長 宮 野 真知子 (記録)

5 議題及び議決事項

協議第1号 令和6年度教育委員会教育行政方針について

6 報告

(1) 一関市議会定例会第107回12月通常会議(一般質問)の状況について

(2) 行事報告及び行事予定について

7 その他

8 会議の議事

○教育長 ただいまから第259回一関市教育委員会定例会を始めます。

協議第6号 令和6年度教育委員会教育行政方針について

○教育長 議事日程第1に入ります。協議第6号、令和6年度教育委員会教育行政方針について、事務局から提案をお願いします。

教育部長。

○教育部長 協議第6号、令和6年度教育委員会教育行政方針についてですが、こちらの行政方針の内容について協議をお願いするものです。詳細につきましては教育総務課長より説明をします。

○教育長 教育総務課長。

○教育総務課長 (説明)

○教育長 これを今度の議会で令和6年度の教育行政方針として、私の方で述べる予定になっています。その前に本日の教育委員会議に提示して、委員の皆さんからの意見を踏まえて、正式な案としていきたいと思っています。

補足させていただきますが、この教育行政方針の根拠としては、以前から作成している一関市の教育振興基本計画が土台となっております。これは10年間の計画ですが、現在、後期の令和3年度から令和7年度までの5年間の後期計画の中で、令和6年度というのはちょうど終盤です。今年と来年で後期が終了するという状況となっております。後期計画を柱にしながら現状に合わせて、令和6年度についてはこのような構成にしたいということで、作成したものです。

1 ページ目の「2 重点的に取り組む施策」については、その後期計画にも4つのプロジェクトが挙げられておりますので、基本的には、項目は変えずに状況を変化させて載せていく。その他の部分については、予算の状況等を加味しながら作成しているという構造になっているところをちょっと補足させていただきました。

それでは、質問、意見と区切らないで、どこからでも結構です。感じられたことや、お考を出していただければと思います。

佐藤委員。

○佐藤委員 内容については特に異存はないのですが、参考までに教えていただきたいものが2つありまして、1つは2ページ目に「大型提示装置の有効活用」とあるのは、デジタル田園都市国家構想の中の1つとして、市として取り組まれたのだったと思いますが、大型提示装置の導入以外に、デジタル田園都市国家構想に基づいた市の取り組みというのは、他にもあったのかどうかを参考までに教えていただきたいのが1つです。

2つ目は次のページの下の方の「確かな学力の育成」というところで、算数・数学を重点教科にするとありましたが、これは令和5年度からの継続だったか、それとも今回から重点に算数・数学を入れたのかそのところです。その下のアートワークショップの実施等も大変いい企画ではないかと思うのですが、継続しているものだったか、新しく今回特に重視するものかというところを教えてくださいたいと思います。

○教育長 教育総務課長。

○教育総務課長 私の方から、大型提示装置の有効活用部分のデジタル田園都市国家構想交付金についてです。デジタル田園都市国家構想交付金としては、大型提示装置の導入と校務支援システムの一部についても県の負担金というかたちとしてこちらの方でもその交付金を使っています。なので、大型提示装置と校務支援システムの導入の2つについて、その交付金を使って進めています。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 3の「(1) 確かな学力の育成」の算数・数学を重点教科に位置づけのところは継続です。

○教育長 よろしいでしょうか。ほかにございますか。

伊藤委員。

○伊藤委員 施策の方針に関しては異論ございませんし、いろんなところを網羅して事細かに述べているので、私はこのままでいいとは思いましたが、ちょっと気になるところは実質的に現状の重点をもう少し見つめて、そこに何か力を入れる必要があるのではないかとと思うところが何点かあります。

例えば、学校教育の中では小学校、中学校、あるいは高校の中では、この施策だと非常に機能するのではないかという感じはしますが、修学前の部分です。やはり家庭教育がすごく重点的なものかと思います。総合教育会議でもお話しさせていただきましたけれども、子を持った親御さんが、本気になって養育あるいは子育てに向き合っているのかというところがいつも気になります。ここをきちっとしていないと、最終的にはここで謳っている一関の人作りになっていくわけです。最終的にはここを大事にするのだということが書いてあるんですけども、そこに繋がっていかないのではないかと思います。一番大切な、就学前の子どもたちのしつけ教育がしっかりしていないと、いくらどのような手立てを講じても、例えば不登校、あるいは引きこもりの子どもがここ何十年と変わっていないような感じがします。私も委員になってからも毎年同じように、不登校というのは市の教育に大きな教育課題になっていたような記憶があります。ですから一番の根幹に関わるものは何かというと、就学前はもちろん就学後もですが、親御さんの子育てに対する姿勢、そして向き合う姿勢で、本気になって自分の子どもを自分たちできちんと育てていく

んだという、そういう意識の高揚、こういうものがない限り、なかなかこういうお子さんへの解決にはならないのではないかというのが1つです。

それから2つ目は部活動の地域移行ですが、なかなか地域の方の指導でやっていくという時には、地域の指導者にも生活がある。そうすると、土日は休みを子どもたちに与えると言っても、土日しか子どもたちに付いて地域で指導ができない指導者が、割といろんな種目でありそうです。私もちょっと歩いてみたのですが。ですから、移行がなかなか苦しくて、例えば今本市では、千厩の柔道と卓球かなんかがなっているわけですが、それ以外はなかなか難しいような状況です。それは今私がお話させていただいたようなことが課題です。ですから、そこが進めていくのにも大きな難があるのかなというのは憂慮することです。

それからもう1点は教師の働き方改革の中で、超過勤務がまだまだ改善になっていないというところがすごく気になります。それでも私たち教師の時は志が高く、俸給に関わらず、仮に4パーセントの上乗せをもらっても、それに関わらず尊い仕事させていただいているということで、あまり私たちは苦痛を感じなかったのですけれども、最近はどうでもなくて、時間帯の中で収まればいいのですけれども、ここに書いてあるように、人作りをするのに、子どもたちと真剣に向き合うと、どうしても時間オーバーになってしまいます。だからある程度は仕方がないと思いますが、中身が濃すぎてきているような感じがします。それは何かというと、平素の教材研究があるし、今度はデジタル化するとデジタル化したところの教材研究それにも時間がかかる。子どもに対する生徒指導の時間帯とか、あるいは対行政とか、対保護者に対する対応とかというと、時間的に困るところがあるのかなと思います。こういう点も加味しながら、この方針の中でなんとか打ち出して、お話ししていくところがないのかなというところがすごく気になります。

○教育長 ありがとうございます。

いきがづくり課長。

○いきがづくり課長 家庭教育の部分ですけれども、社会教育関係で基本的には、市民センターを中心に家庭教育学級、子育て支援講座、こういったものを実施しておりますけれども、やはりなかなかご本人たちの希望で集まるということで、参加者もあまり多くはないというのが現状です。ただやはりニーズというのはあるようで、子育て支援とか家庭教育学級をやっているような講座は、講座をやっている市民センターには地域を越えて参加者があると聞いています。こちらにも書いておりますが、修学前の家庭教育講演会といったものは教育振興運動の中で幼稚園とかPTAそういった教育振興運動の中で取り組んでいるところもございますけれども、やはりこの幼稚園が一関市でも統合になったり、子ども園になったりとそういった中で、地域と幼稚園の関わりというものがちょっと少なく

なってきたという部分もありまして、なかなか修学前の社会教育部分での関わりというのがちょっと難しくなってきたというのを感じているところです。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 3ページの学校部活動の地域移行に関してです。令和5年度は全日型3団体、休日型が15団体、今現在各学校からさらに移行の状況について意見聴取しているところでした。来年度はもう少し確実に増えていくというようになっていて、今その取り組んでいる施策、これが少しずつですが広がりを見せ始めていると言える状況に今現在なっています。ただし、指導者は伊藤委員がおっしゃられるとおり、限りある方のお力添えということになりますので、頭打ちになってしまう可能性もあります。社会教育部局とも協力しながら進めていく必要性は、社会教育委員会議の中でも触れさせていただいておりました。一番大きなハードルになるのは、指導員に審判資格等が求められるというところですので、市の体育協会とか、そういうところとも連携していく必要性はこれから先、また生まれてくるし、協議を重ねていく必要があるなと思っています。

働き方改革についても触れてよろしいでしょうか。6ページの1番上にあります教員の働き方改革に関するところで、充実させるためには中身が濃すぎないかというご指摘を頂戴しました。実際、令和6年度新たに校務支援システムが導入されることによって、学校現場においては新しいものへの対応が必ず生まれるということはそのとおりです。一方で校務支援システムで一旦入力したデータは、例えば保健関係もそうですし、あとは在籍、それから教育課程そのものの評価にも全てデータが連動していくかたちになりますので、学校での使い勝手を含めて、最初は汗をかいていただくことにはなりますが、その後の状況は注視しながら学校を支援していくという考え方に立って、新たに入ってくるものに対する、スクラップアンドビルドの考え方もあるかもしれませんが、状況を把握しながら学校支援を考えていきたいと思っています。

○教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 わかりました。ただちょっと気になるのは最近、新聞もそうですし、テレビ報道もそうなのですが、教員という職業に対して魅力を感じない若者が増えてきた。そこがすごく心配です。私たちがいろいろ政策をお願いしたり、実践していく時に、高い志を持って教師になって、人作りをしていくんだという若者が少なくなってくるというのは、すごく残念だなと、心配です。将来をほんとに憂慮するような状況だと思うんです。若者は実質、本市に限らず県レベルで教員採用試験の希望者は、実質どうなっているのでしょうか。減っているのでしょうか。それとも採用枠が変わったのか、その辺が私もわからないんですけど。わかっている程度で結構ですので教えてください。

○教育長 学校教育課長。

○**学校教育課長** 実質2倍台になっているというのが現状です。私が受験した当時は、小学校の教員でも5倍を超える状況でした。それでもまだ入りやすい時代でした。それから5年経ち、10年経ちでどんどん倍率が上がって行って、なりたくてもなれないような状況が生じた時代がございましたが、今現在は2倍台の状況です。中学校は教科によってはある程度倍率も高いようですけども、そのようなかたちになっています。

○**教育長** 伊藤委員。

○**伊藤委員** 例えば先ほど私が申し上げたように、教師の魅力というか、あるいは教師を希望するような子どもたちが減ってきている、考えられる大きな要因は何なのでしょう。

○**教育長** 先ほど学校教育課長が話したように、教員採用試験の倍率はすごく下がっているんですけども、そもそもその採用数というのは、退職者に対して学校の規模が減って、定数が減って、そこでどれくらいの人数が要かというところから出しています。その倍率の高い時には、10倍を超えていた時もあるのですが、小学校はその時採用者が20人ぐらいという時もありましたので一概に言えないのですが、退職者が多いので確実に教員採用試験の採用数は多い状態が継続していますが、その中で倍率が年々下がっているということは事実です。そこは一関市だけではなく全県と言いますか、県の教育委員会等も危機感を持って行っています。そこで何が原因かというのは、やはり教員の仕事が少し過重であるという部分から、働き方改革を行って少しスリム化しているところを、いろいろなことで公表して、そこに魅力を持ってもらおうという。部活の地域移行化というのも、子どもたちの健康面からもあるのですが、当然教員の働き方改革というところもありますので、地域部活動によって例えば休日型になったところについては、土日は部活に就かないで、自分の生き甲斐に使うというようなところをアピールしていきながら、なんとか倍率を高めようとして、子どもたちに向き合っていただけ若者に教職についてほしいという願いで行っているところ。ただそのほかの業種も同じような状況になっていますので、若者世代そのものの人数が減っている中での、いろいろなところでの取り合い等にも繋がっていくところがあるので、アピールしてもすぐ実効性があって、どんと増えるかというのはなかなか難しい面があると思うんですが、そういうアピールできるところを積み重ねていきながら、やっぱり教職というのはすごく子どもたちと触れ合っている仕事ですので、そこを理解していただきたいなというところはあります。

先ほどの働き方改革のところをつけ加えると、超過勤務の管理については1番は管理職のところ、部下職員が何で時間をかけて、それが本当に必要なことに時間をかけているかどうかというのを見ていくことがあるかなと思いますので、学校の中での必要なものと優先順位低いものと分けて、それを上手く方向づけていくところが必要かなと思うところ。です。

部活の地域移行について、その指導者の方が土日しかできない方がいるというのはそのとおりなわけなので、今、市としてまず目指すところは、最終的には全日型なんですけれども、最大には休日型の土日どちらかを見ていただく方で、平日は勤務時間内は部活動の顧問が、勤務時間外は育成会等がというような休日型の地域移行をまず進められればなというところなんです。一気にはいかないだろうなと思っています。

就学前教育のところは、社会教育学級やあるいは教振というところが、先ほどお話のあったように全体に関わるところになるんですけども、教育委員会としては教育研究所で幼稚園に行って、子どもあるいは保育所と小学校との連携をしているので、小学校との連携に期待するところなのが、必ず連携すれば行き着くところは養育のあり方というところなので、小学校との連携をしながら幼稚園、保育園、認定こども園ともいろいろ共有して行って、そちらから保護者に働きかけていただくということも、教育委員会、教育研究所が担う部分では大きいのかなと思ったところでした。

そのほかございますか。

桂島委員。

○桂島委員 この教育行政方針の多岐にわたる項目をわかりやすく簡潔にまとめるのも、すごく大変だったんじゃないかなと。ご苦労がよく見える内容だなと思います。本当にわかりやすくまとめられていると思います。

2ページのグローバル人材ということで、すぐ取り入れるのは難しいかなとは思いますが、本当にグローバルというのであれば、私はなぜか外国の方に道を聞かれるという機会があるんです。しかもなぜか土地じゃないところに行った時、例えば大阪に行った時、あと去年の暮れにちょっと用事があって銀座に行ったんですけども、銀座というあれだけ人がものすごくいる交差点の信号待ちのところで、外国の方にユニクロはどこだと聞かれました。大阪の時も水族館はどこだと聞かれました。あとはセブン-イレブンで買い物している時に、アップルパイをこれはなにかと聞かれました。しかも大阪の時も銀座の時も、本当にすぐそこっていうぐらいの、もう見たらわかるぐらいのところを聞かれるわけです。私の拙い英語でも伝えられるぐらい、すぐそこというところですが、何でかなと思いつつなんですけれども、主人は私よりもだいぶ英語とか勉強したんです。学部的にもなんですけど、外国の方の目を見ると、目の色も違うし目を合わせて話すのが怖いと言うんです主人が。もしかしてそういう日本の方が多いのかなと。外国の方というだけでちょっと身構えてしまう方が多いのかなと思うのですが、身構えるのではなく前も言いましたが、人間って外国の方でも何でも同じ人間というところは変わらないかなと思うので、身構えることのないように、せっかく1人1台タブレットだったり、ネット社会だったりということがあるので、ALTの方もいらっしゃっていますが、毎回の英語の授業ではな

いですし、英語の森キャンプにしても、希望者は触れ合う機会はあるのですが、参加していないお子さんはなかなか自分から進んで、例えばスカイプを使ったり、オンラインでやり取りとか、英語のレッスンをしていれば別ですけど、そうでないと英語の塾に行っている方も、皆さんそうじゃないと思いますし、なかなか同い年の子たちと身近な話をする機会というのがないのかなと思うんですね。アメリカンスクールとか行っていれば別ですけど、そういうわけでもないと思うので、せっかくタブレットとかがあるのだからオンラインで繋がれると思うので、今すぐは無理でも例えば向こうの、外国の学校の子たち、姉妹校の子たちとその機会に英語の授業に、ネットで繋いで同い年の子たちと会話する機会が、直接お話しして遊んだりという中でできれば1番ベストなんだと思うのですが、なかなか距離もありますし、費用の問題もあるので、このネット社会であるゆえの施策をしていけたら、本当にグローバルの壁を作らないで、同じ人間として同じ方向に行けるっていうのはできるんじゃないかなと思いました。なかなか時間はかかるとは思いますけど、そういうのはどうかなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

学校教育課長。

○学校教育課長 今現在、義務教育の小中学校で、外国から就労に来た方のお子さん等で、外国人、外国籍の児童生徒というのは、例えば山目小学校には、パキスタン系のお子さんが今5名日本語指導というのを受けている状況です。国際交流する機会は、意図的に作ろうとすればできるし、総合的な学習の時間というのが小中学校とも位置づけられていますけど、そういう授業時間に国際理解という位置づけを持っている学校も複数あるようです。そういった学校に身近なところから、外国と交流というのを視点にした取り組みというのはいかがでしょうかという話はしてみようかなと思います。せっかくですので、街で声をかけられる子どもたち、それに答られる子どもたち作りというのも1つの視点に。

○教育長 桂島委員。

○桂島委員 先日も銀座で話しかけられた時もそうなんですけれど、そこの対応1つで日本人って親切だなと思うのか、ちょっと嫌な思いさせたなっていうそこの別れ道というところを考えると、日本人の看板背負っているなと思うんです。当院のクリニックにも外国の方が来たりすることがあって、必ずしも英語の方ではないこともあります。先日残念だったなと思うのが、風邪の方や熱がある方を中に入れなくて車で待っていただいているのですが、ほかの待っている方たちに感染を広げないためなのなのですが、日本語がわかる方だったので風邪でいらした方は、パキスタンかバングラディッシュかブラジルかそちらの方たちかと思うのですが、日本語がわかる方だったので風邪の方はちょっと待っていただいているのでと話すとき、なんでほかの患者さんは中で待っているのに私たちは外に出されなきゃ

いけないんだと言って、こちらで説明をしたのですが、何で自分たちが外で待たなければいけないのかというところで、その理解が得られなくて、その方たちはもういいですと帰ってしまいました。理解させられなかったのもほかにどういう言い方があったかなというのがありますし、もし自分たちが外国人で、外国人だから外でと言われたと誤解されたのだとしたら、本当に申し訳ないなというのもすごく反省しているところでした。同じようなことがあった時に、その誤解がないようにどうやって伝えられるかなというのは、日々職員たちとも教育しながら話しているところです。グローバルっていうのもそうですし、日本人としての看板というか病院としての看板というのもあるのですが、外国の方と接した時にお子さんたちが対応できるようにというのは素晴らしいなと思うので、そのところをできたらいいなと思います。

○教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 今の桂島委員のお話私の体験もそうなんですが、私も国外に5年ほど生活してきました。私も好きで一生懸命勉強したんですけれども、大学も含めて10年間勉強しました。それで今の羽田空港から当時、南半球のオーストラリアに行ってエアポートを降りて、税関を通る時に、他愛のない英語だったみたいですが、何を言われているか全くわからなかったんです。何でこうなるんだろうと思った時に、現在ではだいぶ英語の教育システムが変わっていて、今は昔のように文法が中心ではないんです。私たちの時は文法が中心で、英語の勉強というのは、会話なんていうのは二の次でした。ですから、多分桂島委員も旦那さんもそうでしょうけれど、外国人に話しかけられた時に、自分の頭の中で一旦英語を日本語に変換して、今度は自分の頭で答えの日本語を英語に変換して話すという作業をするのですが、スムーズにいかないんです。それは何かというとやっぱり私たちが受けた、英語の教育が根底にあるということが、私の時は特にそうでした。だから外国人に話しかけるのはすごく憂鬱でした。あっちに行った時にトラウマになって、どのように対応したらいいのかなという感じでした。今の子どもたちを見て、学校訪問や公開授業研究会に行って、ALTがいてそして授業風景を見ると、私たちの時もこうだったらなと思うぐらい、すごく改善されています。ああいう教育をどんどん推し進めて、文法も大切ですが、人と人とのコミュニケーションを築くのはやっぱり会話です。だから聞く力をもっと子どもたちに、身に着けさせて、ボキャブラリーはもう中学校とか小学校のボキャブラリーで十分に会話は通じるそうです。私も向こうに3年居て、やっと友達からお前小学校6年生ぐらいの会話ができるようになと言われたことはあるんです。ですから聞く力があって相手が何を話しているかということを理解できれば、自分の持っている単語で答られる。そうすると、ちゃんとコミュニケーションを築けるようになります。そういう教育をずっと力を入れて進めてほしいなと思います。例えば高校入試のための英語の教育とか、大学

入試のための英語の教育ではなくて、桂島委員が話されたような、公共の場で話しかけられた時に窮したということがないように、できれば簡単な単語でもあそこだよと言えるような子どもを育ててほしいなと思います。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 何年も前の岩手県の学習定着度状況調査というものの問題の中に、*I s t h i s a d o g ? N o . I t ' s a b i g c a t .*という問題がありました。これは犬ですか？いいえ、大きい猫ですという問いだったんですが、その問いは次の選択肢、日本語の3つの中のうちのどれですかという、やっぱり昔は日本語に置き換えることを前提にしてその選択肢を選ぶという問題でした。それが、今年度の全国学力調査の中学校英語の問題は、ヒアリングが入ってきて、7秒以内に英語で問われたことに対して英語で回答するという仕組みになったら全国的にかなり定着率が低い、達成率が低い。中でも岩手県は特に低い。一関もそれに漏れず、低いという状態でした。まさに、ご指摘のとおり日本語変換ということ前提にした英語教育があるのかなと思ってました。その部分には、2ページのグローバル人材育成のところの外国語指導助手、ALTの派遣など進めて参りますというのが真ん中にあるんですけど、その続きで加えて英語検定料補助として、英語の力を高めようとするところを少し力を入れたいなという動きを、令和6年度とっていこうと考えております。特に英検3級は面接によるリスニング、スピーキングが入ってくる面接がありますので、そういった時に生きて働く英語としての部分の素地も高まっていくのかなという期待も込めてのものです。合わせて目を見てお話ができる子どもたちにもなってほしいなと思うので、その辺りの働きかけもしていきたいなという風に考えております。

たくさん大切なご意見を頂戴しました。ありがとうございます。

○教育長 私の方から補足ですが、今の英語の授業の改善の大きな視点は、実践的コミュニケーション能力を育成するというのが、英語の教育過程の改善です。なので、伊藤委員がおっしゃったように日本語で文法とかやって、それで何回も暗記しようというスタイルの授業ではなく、今ほとんど中学校では、授業者も子どもも英語でやり取りする、英語で問題を投げかけて英語で答えるという部分と、もう1つは授業のスタイルが教科書の英文を読んで、そこに何が書いてあるかということ調べていくというよりも、例えば自己紹介の文を読んで、この人は何が好きなんだろうかというのをその英文から推測していく。その次に、自分の自己紹介をこの人に伝えるようなものを作っていこうということは、まさに街で会った時に英語で聞かれたら英語で答えたり、目を見たりというところですが、この、もう1つ実践的コミュニケーション能力というところは、英語もですけども、やっぱりほかのところも連動しているので、例えば中学生の社会体験学習などの時に、やは

り職業体験していく上では、相手の方と目を見て、聞かれたらちゃんと自分で答えるというところも全て絡み合ってくるので、今もそのグローバル人材プロジェクトの中でのコミュニケーション能力、そしてその中での英語というのが1番そこが顕著に現れるところですので、大切なところだなということで聞かせていただきました。ありがとうございました。

ほかにありますか。

大波委員。

○大波委員 私もこの大きなものについては特段意見というものはないのですが、一関市の第3次一関平泉定住自立圏共生ビジョンの委員をしているのですが、その中の教育関係の項目で取り組み内容のところに、社会を生き抜く力を育ませるみたいな、社会体験等でそういう文言がありましてすごく違和感を感じました。社会を生き抜く力って今のこの世の中、さまざまな子どもたちがいる中で、社会を生き抜く力って何なのだろうということにすごく疑問を持ったのですが、その施策というものが科学であったり英語の森であったり、そういう部分に参加して、本当に自分で自分を高めようとしている子どもたちがいる。その子たちは社会を生き抜く力を身につけていくということは非常に大切なことだと思ったのですが、この3番目の中にも社会を生き抜く力を育む学校教育の充実という大きな文言が出てきます。これは後期計画の中の一文でもあるので今どうこうという話ではないんですが、果たして今の時代にこの社会を生き抜く力というものが全ての子どもたちの教育に合っているのかなということも1つ疑問に思いましたので、質問とかではないのですが、今一度、この文言を使っているということを考えていきたいなと思いました。

4番目、学校給食についてです。最近の定例会の中でも給食費の高騰、それと市の予算補助を使って賄っているという話が何度も出てきていますが、学校給食試食会に行った保護者から言われたことですが、大きな男の子も小さな女の子も出される量が一緒で、食べきれない。女の子は残すし、男の子は足りません。これは学校教育としてどうなんですかということをおっしゃいました。私も非常に疑問に思いました。パンが食べられない中学生ですが、2つのパンがあったら食べられない子は1つでいいじゃないか、食べられない子はその1つのパンを食べられる子に分け与えたらいいんじゃないかと思いました。みんながみんな1つの大きさのものではなくて、そういう工夫というものをしているのだろうかということもすごく思いました。子どもたちにSDGsということをお教えているのに、大人が提供していることがそもそもSDGsじゃないのではないかと。子どもの頃に食べられない、残すということをお根本的な教育として学校で教えてしまっているのではないかと。私はその保護者からの指摘ですごく感じました。給食費が高騰している、子どもたちが給食を残しているということに対して、具体的に調査をされたことがあるのかなということも疑問に思いましたので、この大きな方針には関係がないかとは思いますが、

せっかくの機会ですのでその辺を教えていただきたいと思います。

あと、先ほどから出ている英語教育の話なのですけれども、私は一関ロータリークラブに所属しておりまして、今現在長期留学のリー君という方を一関一高の2年生に受け入れをしておりまして、6月までアーカンソー州からやって来ているのですけれども、すごくイケメンのめちゃくちゃ感じのいい男の子なんです。特に学校の勉強をしているというよりは、日本語を学んだり日本の文化を学んだりということを重点的な目標として来ている子なので、ふれ合いたいとか、学校でみたいなそういう積極的な計画があるのであれば、私の方から声をかけて連れていくということは、全然ウェルカムだと思いますので、6月までという非常に限られた時間ではありますが、せっかくふれ合える機会もございますので、あとうちはロータリーですけれども、ライオンズさんの方でも受け入れをしていたりしますので、そういう方たちを活用しながら、子どもたちが外国の方を身近に感じていくという機会を積極的に設けていくのもいいのかなと感じました。

○教育長 ありがとうございます。

学校教育課長。

○学校教育課長 給食試食会に行かれた話のところ、給食の設定の前提ですけれども、1人当たり何キロカロリーというように、1人当たりの位置づけで作られているというのが前提になっていて、あとは量的なもの基本的に主菜は1人1つ、ハンバーグ1個ずつとか、副菜で野菜はバットの中に入っているものを盛り分けていくというところで進んでいる状況ですけれども、全員等しい量で分けていない学校の方が多いのではないのかなと思っていました。その子の得意不得意、それから食べられる量的なもの。残食調べというのを年間の中で行っておりまして、ある一定期間の残食量なんですけれども、総重量の大体5パーセント台に収まっていて、県の平均よりも一関が低いというデータが出ているのが確認されておりました。合わせて給食をどうしても食べられない子については、昔のように昼休みに残って食べられるまで頑張りなさいということは、もう今一切なくなって、そういうのは体罰だという位置づけになって、給食指導もだいぶ柔らかい状態になっています。何でも食べられることが、その子のこれからの人生よりいろんなところで、いろんなお付き合いをしていく中で出てきたものを美味しく食べられる、そんな子であってほしいと思っても、なかなか思うようにいっていないというのはそのとおりです。保健係の方とも共有しながら給食に携わってらっしゃる栄養教諭等にも情報共有していきたいと思います。ありがとうございます。

○教育長 社会を生き抜くという言葉については、学習指導要領の前々回の改訂で、生きる力という言葉が出てきたことがすごく大きいのですが、その時々に必要な知識を理解させても、それがもう日にちが経つともう使えなくなる、新しいことになっていく。だ

から必要な知識を注入するよりも変化に対応できる、その持っている知識を使って次の課題に対応できる力をつけていくということで、生きる力が出てきましたし、総合的な学習の時間というものが作られてきたので、ここでいう社会を生き抜く力とは、学校教育は将来にわたっていろいろな課題が出てきた時に、それを解決していく力をつけていくという意味で使っていると思います。その必要な力が3の(1)から(11)までの項目に細分化されてるというようなところで捉えていただければと思います。

桂島委員。

○桂島委員 先ほどの生き抜く力というのは、確かに、今教育長から説明いただいた、トータル的なものと将来的なものを見越してという言葉なんだと思うのですが、生き抜くという表現を使うのか、適応という言葉を使っていくのかということでも、今後検討が必要なところかもしれないなど大浪委員の話を聞いて思いました。

先ほどの給食の件ですが、学校によって対応が違うんだなと感じました。息子の通っている小中学校とかではその子の食べられる量で盛って、配膳するらしいんですけど、そうすると残るらしいです。残ると、食べたい子たちが積極的に誰か食べたい人はいるかという感じで全部なくなる。うちの息子がよっぽど物欲しそうに見えるのか、よく隣の女子とかからご飯食べるって言われて分けてもらったり、パン食べるって言って分けてもらったり。でも、あの子野菜を分けてくれるんだけど、ハンバーグは分けてくれないんだと言って、そりゃハンバーグは好きだろうからねという話をよくするんですけど、1年生のうちだから食べ物を大事にというのは教えたくてというのとか、担任の先生がそのように育ってきたからというのかもしれないとは思いますが、今は無理に最後まで食べるためにというのは、体罰という考えになってきているという時代も踏まえて、そこら辺を統一して先生方も共通の意識を持っていただければいいと思います。食べられる量やエネルギーを必要とするその子たちには個々の差があると思いますので、もう一度言っていただければ、安心して親御さんたちも給食をトラウマになることもなく通わせられるのかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。給食費を一律徴収していますので、主食はいらなから、食べないとかいらなからではまずいので、ある程度標準的なものは配膳する。その後の個々の食の状況については個別対応に配慮するというあたりを、校長会議等で確認したいと思っています。

○教育長 大浪委員。

○大浪委員 パンの大きさも、1個ではなくそれが2個に分かれてたら半分どうぞみたいなのができるのかなという配慮ですかね。

○教育長 そこは色々な配慮事項でというところよろしいでしょうか。

では、いろいろあるかもしれませんが、個別にもしあれば今月中にお願いしたいと思います。

それでは、議事日程第1号協議第6号、令和6年度教育委員会教育行政方針については、このように出させていただきますよろしいでしょうか。

(満場一致により) ありがとうございます。

報告(1) 一関市議会定例会第107回12月通常会議（一般質問）の状況について

○教育長 3番の報告に入ります。報告(1)一関市議会定例会107回12月通常会議一般質問の状況についてお願いします。

教育部長。

○教育部長 それでは私の方から、説明をさせていただきます。資料No.1をご覧くださいと思います。令和5年12月市議会一般質問の状況ということで、12月議会が今年の12月5日から12月19日までの期間で開催されました。その中で一般質問において今回は8人の議員から、教育委員会に関連する質問がありました。かなり量的には質問の数は多かったのですがページ数も多くなってきておりますが、その中から新しい質問であったり、重要な質問についてご紹介させていただきます。

初めに1ページ的那須議員からは、クマの被害対策についてということで、今年度は熊の出没状況が例年に比べて倍ぐらい、一関市でも多い状況でしたので、クマに関する質問が出されました。②学校付近でクマが目撃された際の対応はどういう対応を行っているのかという質問がございました。これに対して教育委員会としては、目撃情報があった場合にはその学校へ速やかに情報を提供して、児童生徒への安全配慮を行うよう指導しております。学校の方ではその状況を把握して、一斉メールによって保護者に周知を行うほか、各学校で設定している危険管理マニュアルに沿って、対応を行っていますという答弁をしたところです。

次に猪股議員からは、骨寺村荘園遺跡と今後の本寺地区の地域振興についてということで、拡張登録の構成資産から外れたことに対する質問です。2ページ②本寺地区における影響を市ではどのように捉えているかということで、これに対してはこの骨寺村荘園遺跡は、水田そのものが文化財であるとともに、地域の方々の生業、生活の場であるということから、今後の文化財としての位置づけについてはまず地元の意見を伺ったうえで、意見交換から行っていく必要があると捉えているという答弁をいたしました。

続きまして3ページ目、岩渕優議員からは不登校支援についてという質問がありました。①の部分ですけれども、国の方で「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」ということで、COCOLOプランというのが示されておりますので、それを受け

ての不登校対策の取り組みはどのように行っているのかという質問でございました。これについて、このCOCOLOプランというのは主な取り組みとして、学びの場の確保であったり、チーム学校としての支援であったり、みんなが安心して学べる場所づくりの大きく3点が示されておりますので、これの3点に対しての一関市のそれぞれの取り組みを記載のとおり紹介をしたところです。

続きまして4ページ目になりますが、千田議員からは一関市の教育課題についてというところで、②児童生徒のいじめ、不登校の現状はどうなっているのかという質問がありました。いじめについてですが、学校においていじめを積極的に認知して、その解決にあたる考えというのが浸透してきておりまして、今年度10月末時点のいじめ認知件数、合計で162件ということで、昨年度と比較して1.5倍に増えているという状況だと答弁しました。また、不登校についてですが、こちらは全国的にも増加の傾向にあり、当市における10月末時点の人数としては合計147人で、昨年同時期よりも28人増加となっている状況ですというような答弁をしました。

その次に、③教員の健康と職場環境についての課題ということで、これに対しましてまず教員の健康面ですが、10月末現在の当市における病気休暇中の教員は2人ございました。いずれも精神疾患以外の疾病によるもので、復帰されているというところです。病気休職中の教員は3人で、こちらに関してはこの理由はうつ症状などの精神疾患によるもので、3人休職中です。この休職の教員が在籍する学校には、欠員補充として講師を配置していると答弁しています。課題というところで働き方の課題としては、長時間勤務が挙げられるということで長時間勤務の是正を図って、教職員がワークライフバランスを意識していきいきと仕事に向かうことができるよう進めてまいりたいと答弁しております。

続きまして8ページ岡田議員から、学校施設の充実及び読書普及員の処遇改善についてという質問の中で、①学校施設のLED化の進捗状況について質問がありました。市内の学校のLED化については、平成29年度以降新たに学校を建設した千厩小、室根小、花泉小、東山小については、施設全体の照明器具にLEDを採用しています。それ以外の在来の学校においては、電球の交換時や証明器具本体の交換が必要となった場合にLEDに交換しているところですが、今後の学校施設のLED化を進めるにあたっては、それぞれの学校の建築年数であったり、校舎の状態に応じた大規模改修の実施時期の設定であったり、照明の使用状況に応じた改修箇所の順位づけであったり、あとは補助金などの財源に応じた、改修方法の選択などを検討しながら順次進めていきたいと答弁をしております。

次に9ページ目ですが、佐藤浩議員からも骨寺村荘園遺跡の今後についてという質問が出されました。②ひらいずみ遺産に今回位置づけられましたが、今後の地元の取り組みはどういう風になっているのかという質問に対して、県が示した今回のひらいずみ遺産の

主な取り組み内容としては、この平泉の文化遺産包括的保存管理計画というものがありますが、それに基づいて保存管理の取り組みを推進すること。資産にかかる調査研究の状況について、それぞれ情報共有を図って成果を蓄積すること。各構成資産を拠点とした収入であったり、来訪促進などの文化観光の取り組みを推進すること。県内の他の世界遺産と連携した取り組みを推進することというようにされております。この地元の取り組みを含めた事業の詳細については、県と関係市町の今後の協議で決まることとなっておりますし、市としては地元の意向を確認しながら今後進めていきたいという答弁をしております。

続きまして、11 ページ佐藤幸淑議員からは、フッ化物洗口についてということで、虫歯予防の取り組みでございますが、これについて12 ページ③市では今フッ化物洗口を導入していないのですが、その理由、なぜ導入していないのかという質問がございました。これに対してはフッ化物洗口というのは、各疾患の予防対応と同様に保護者の判断で家庭において実施することが原則であるという風に考えております。仮に学校で実施する場合には、給食終了後というのは想定される場所ですが、このフッ化物洗口の実施の時間を確保するというのは難しい状況であるということで行っていない。④では今後フッ化物洗口に取り組む予定があるのかという質問に対して、本市としては学校保健安全法に実施が義務づけられていないフッ化物洗口を、今後実施する予定は今のところはないところだというような答弁をしたところでございます。

主な内容については以上でございます。

○教育長 このことについて何かご質問等ありますか。

佐藤委員。

○佐藤委員 5 ページの千田議員の質問の3つ目に、教員の健康に関することで、先ほどの教育行政方針とちょっと関連する内容だと思うんですが、確認したいのが先生方の健康状態といった場合、身体面と精神面とあると思うんですがけれども、職業上の悩みとかそういったものを相談したりする仕組みというのは今あるのかどうかを教えてくださいと思います。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 県費負担教職員に対して、県の方からメンタルヘルスセミナーというのが定期で、希望で位置づけられています。あと先生方には管理職、校長先生等から医療と繋ぐという部分で努力してござっております。先ほど出てきたのは皆さん精神疾患に関わる場所でしたので、その専門医の方に繋いでいただけるそういう取り組みも行っているところです。

○教育長 よろしいでしょうか。ほかにございますか。

桂島委員。

○桂島委員 10 ページ上の方の②です。体育館の開放事業の鍵の管理の方が高齢化だったり後継者がいないということで年々確保が難しいということですが、鍵の管理の方の確保が近隣の方がもうどうにもいないよとなった時にこの解決策は、今の段階で何かあるのでしょうか。

○教育長 教育総務課長。

○教育総務課長 1つはコンビニンスストアなど24時間やられてるようなところがあれば、そういったところをお願いするというのが1つ。実際にやっているところもあります。

もう1つは、暗証番号を入れるようなダイヤル式。キーボックスを体育館のそばとか、校舎の近辺につけて、それでキーの出し入れをそこにする。もちろん暗証番号は学校と貸し出しする団体しかわからない。そういったキーボックス式でのやり方というものもあります。ただ、まだキーボックスを入れているところはなかったかと思いますが、いずれ今後高齢化だったり、多少夜遅くなったりする部分もありますので、引き受け手が難しいとなった場合には、そういったやり方で考えていきたいと思っております。

○教育長 桂島委員。

○桂島委員 ある地域の学校では、暗証番号がずっと同じ。名前は出しませんがそういうところもあつたりなんかして、これってどうなのかなと思いつつも利用していたんですけども、もし体育館の横にキーボックスをとというのがあれば、1年に1回変えるなり、卒業生の保護者の方とかが知らないような状況で共有しないと、防犯上よくないのかなと思います。体育館にも大事なものを置いていたりもすると思うので、そののともそうしてると思いますが、そののともよろしくお願ひしたいなと思ひます。

○教育長 貴重な意見ありがとうございます。

ほかにございますか。よろしいでしょうか。

報告(1)を終了いたします。

報告(2) 行事報告及び行事予定について

○教育長 (2)行事報告及び行事予定についてに入ります。私の方から行事報告をさせていただきます。前回は12月20日が定例会でしたので、それ以降の行事の報告を行います。

12月23日、一関図書館で、駒形克己氏と懇談して参りました。造本作家、デザイナーで、昨年度一関図書館から教育委員会に紹介をいただき、ワークショップで力をいただいている方です。この方に継続して力添えいただくことは、教育面で大きな力になっていると思います。来月2月6日に開催するキャリア教育シンポジウムでも講師をお願いいたしますし、来年度も各学校からの手挙げ方式で行っている学びの進化プロジェクトにご協力いただけるお話をいただきました。

年が明けまして1月5日、教育研究所の研修会がありました。これは年に1回市内の先生方が、4割ぐらゐの参加率で集って研究する会です。研究部会が3部会で、それぞれの部会の研究実践発表がありました。講演会では東北学院大学文学部教育学科の佐藤正寿教授を講師に迎えました。この方は小学校の教員で、学級経営や社会科教育の実践家でありましたので、当日参加された先生方にとっては学級経営や教科経営を進めていく上で、大変勉強になったのではないかと考えております。

同じ日に市の新年賀詞交換会がベリーノホテルで開催されまして、大浪委員にも出席をいただきました。

7日には二十歳の集いがありました。成人年齢は18歳になりましたけれども、一関市では従来どおり二十歳の集いということで式典を行っております。今回は該当者が1,126名でその中で877名の出席申し込みがあったと聞いております。例年と同じく式典と記念行事の2部構成で行われました。座席はコロナ禍前の実施時に戻しました。非常に落ち着いた式典で心温まる記念行事であったと考えております。出席いただいた委員の皆さん本当にありがとうございました。

10日、花泉町の新年交賀会に出席して参りました。

11日に一関中央ロータリークラブから、市内小学校8校に図書の寄贈をいただいたことを受けて受贈式を行いました。寄贈をいただいたのは3回目となります。一関地域の8小学校に計27冊の図書をいただきました。

同日、学校給食の運営委員会を行いました。今年度の総括、今年度の反省点を踏まえてさまざまなことについて協議をいたしました。特に給食費、食材費について昨年度から物価の高騰が続いて、給食の食材費も高騰しているところですが、国からの交付金を活用して給食費についてはなんとか対応しているところでの説明をしました。対象は児童生徒となりますので、教職員の給食費については値上げをしております。次年度物価高がまだ続いている状況ですが、保護者の負担が増えないようにできないかを現在検討している状況ということも説明いたしました。仮に令和6年度対応できても、令和7年度以降の見通しはなかなか難しいのかなというところがありますので、今後必要に応じて保護者アンケート等も取りながら対応していくということを、ご理解いただいたところです。当日説明したところですが、1月26日の金曜日から2月21日水曜日まで、一関図書館を会場に郷土食を育む食育展を行います。去年も行ったものですけれども、図書館の中にレシピコンテストの入賞作品や給食ができるまでの調理場のビデオとか、今回は新しく給食の思い出というのを書いていただいておりますので、もし図書館に行く機会があれば委員の皆様にもご覧になっていただければと思っております。

12日に社会体験実行委員会がありました。中学生の5日間の社会体験についてです。市内16校中5日間実施した学校は一関市立中学校14校です。3日間が平泉中学校と一関第一高等学校附属中学校の2校でした。子どもたち、保護者、教職員の評価は非常に高いものでしたが、事業所からは事前指導や事前の打ち合わせが必要だという意見も出されており、今後の実施について改善を図っていきたいと思っております。

13日は一関市博物館で、縄文時代のものづくりの展示解説会が開かれて、ちょうどこのテーマ展の初日にあたったところで、学芸員の説明を聞いて見てきたんですけども、非常に分かりやすい説明で、展示の仕方がその説明を聞くことによって、このように工夫しているんだというのがすごくわかるものだったので、日常的に見るのも意義があると思いますが、解説を聞くというのもすごく意義があるなと思って見てきたところです。

1月19日に一関地区の人権擁護委員の方が見えられました。人権擁護委員会委員の活動の1つに、中学生の人権作文というものがあり、人権意識を高めていくことで人権作文表彰も行っているところです。各中学校ではさまざまな団体からの依頼を受けて対応しているところから、一関地区の中学校3つのグループに分けて、3年に1回重点校ということで来年度の重点校の確認をしたところです。

20日、ホテル松の薫を会場に、日本水泳連盟から有功賞を受賞された小野寺正好氏の授賞祝賀会に出席をして参りました。

21日、第16回夢・未来子ども文化祭の舞台部門と展示部門がありました。これは文化会議所が毎年開催しているもので、舞台部門と展示部門に分かれて、舞台部門は今回12団体が出演しまして、モダンダンスとか舞踊とか一輪車とか、さまざまな発表がなされたところです。展示部門では、書道、絵画、発明創作展等がありまして、子どもたちの非常に素晴らしい作品を見ることができました。本当に一関市の子どもたちの持っている力というのはすごいなというのを、午前、午後と感じた1日となりました。

23日、昨日ですがB&G、ブルーシー・アンド・グリーンランド財団の全国サミットに出席をして参りました。これは、藤沢町のB&G海洋センターが10年連続で特Aという高い評価を受けて表彰されることがメインでしたので、市長と一緒に出席して参りました。この団体からは、現在文化財課に予算をいただいて、先ほどの教育行政方針の中にもありましたが、大槻三賢人の漫画を現在作成して活用を図るようになっているところですので、さまざま支援していただいているところです。

行事報告は以上となります。

行事報告について何かご質問ありますか。よろしいでしょうか。

それでは行事予定について、教育総務課長。

○教育総務課長 (説明)

○教育長 2月の定例会は、2月29日の午後1時30分からの予定としておりますが、よろしいでしょうか。

よろしく申し上げます。

学校教育課長に確認ですが、定期人事の内申についてはこの日で可能ですか。

学校教育課長。

○学校教育課長 この日でお願いしたいと考えております。

○教育長 特に教職員の校長の人事については、定例会で確認、内申を上げなければいけませんので、29日に行うということをお願いいたします。では、予定についてよろしいでしょうか。

桂島委員。

○桂島委員 3ページの大東大原水かけ祭りに教育長は参加されるのでしょうか。

○教育長 教育総務課長。

○教育総務課長 午前中は、水かけ祭りの神事の修祓式がありまして、そちらに市長以下ご案内があるかと思えます。

○教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 確認です。コロナが5類に分類されてからいろいろ行事とか、計画が実行されるようになっていたりしていますので、今年度の小学校、中学校の卒業式とか、あるいは入学式が挙行されると思いますが、私たちもそこでは告示を例年述べていたりしましたけれども、その割り振りとか、配置等がいつ頃行われるのかなということが気になりますので、もしお話できる範囲でお願いしたいです。

○教育長 教育総務課長。

○教育総務課長 日程の方は、ほぼ小中ともに確定しております。現在、学校教育課を中心に、市長の日程とそれから各委員の日程等について、これからちょっと調整をさせていただいて、2月29日の教育委員会議の時には、告示をお渡ししますが、その前に日程等は改めて調整をさせていただいて、ご都合のいい時とか日時とかあると思えますので、そこは委員さん方に改めてお知らせしながら、調整をさせていただきたいと思えます。

○教育長 桂島委員。

○桂島委員 大体卒業式って6日の週でしたでしょうか。それとも次の週でしたか。中学校だと高校の合格発表の前の日とかが多いですね。

○学校教育課長 3月14日の週に集中しています。小学校は翌週の19日あたりになります。

○教育長 3月10日までは入らないと思います。

よろしいですか。

行事予定についてはよろしいでしょうか。報告を終わります。

その他

○教育長 4 その他、何かございますか。

大浪委員。

○大浪委員 二十歳の集いについてですが、私、自分の成人式以来初めて出席をさせていただいたのですが、その中で疑問に思ったことがありますので教えていただきたいと思います。それは成人式の子もたちの座割になります。私が座っていたところが磐井中学校で、前を中心に一関中とか桜町中とかありまして、一番後ろの入口の近くがその他の中学校というような書かれ方をされた座席でございました。毎年その席というのはローテーションのようにぐるぐる回っていくものなのか、それとも毎年同じ座席で二十歳の集いが行われているのかということが気になりました。なぜかという、昔であれば旧一関の子もたちは一関だけでやっていたので、それでもいいのではと思うのですが、今は合併してもう10年以上にもなりますので、いつまでも前の席を旧一関の中学校が陣取っているというのはちょっと違うのかなと思います。毎年ぐるぐる回って、東磐井の中学校だった子もたちも前に回ってきたりするような年があってもいいのではないかということを感じましたし、うちの息子なんかはその他の中学校に入る部類のものなので、あんな席では行かないと言っているのは当然のことなのかなということをしごく思いましたので、座割について伺いたいと思って手を挙げさせていただきました。

○教育長 いきがいづくり課長。

○いきがいづくり課長 座席の割り振りですけれども、あれは基本的に式典、記念行事が終わった後に記念写真撮影をしますので、遠くの学校ほど記念写真撮影を早くしてという考えのもと、後ろの方に遠くの中学校といいますか、旧一関地域の学校が前の方に行っているというような考えのものの配置になっております。ローテーションということも確かに考えてはいたのですが、もともとの配置の考え方が遠くの地域は早めに記念写真撮影をするようにという考え方でしたので、あと、対象者が毎年変わるということで、毎年同じ配置ということをやっているところでした。

○教育長 大浪委員。

○大浪委員 毎年とその事務的な要素というものは、こちら側の都合であると思うんですね。毎年対象者が変わるというのも、それはそうなんですけれども、印象としていつでも旧一関が正面を取っているというのは、私は違うと思います。なので、そこのところから、

やはり考えていかなければ、子どもたちの価値観だったり考え方も変わらないのではないかということだと思います。大東の子たちがいつまでたってもなんかちょっと田舎の、市街地の子ではないという気持ちであったりとか、自分たちは東山のなんかちょっと外れの子みたいな、市街地の子というところと、すごく子どもたちって分け隔てが感じられていると思います。一色淡に大人の事情で決め切ってしまうというのは違うのかなと思いますので、次回以降、それは実行委員会に投げかけてみるっていうのも1つかもしれませんが、大人の事情だけで座割というものは決めてほしくないなと感じました。今すぐどうこうしてほしいということではないので、懸案事項として1つ思っていたいただきたいなと思います。

○教育長 じゃあ、このような意見があるということで、よろしくお願いします。

桂島委員。

○桂島委員 今の意見で、例えば今まで後ろの方に遠くの中学校を配置したのは、写真を撮る都合上のという思いやりの1つも入っていると思うので、大浪委員が言っている話も総合するのであれば、遠くの方たちを前にして写真の時に前から移動すればいいんじゃないかということも思ったりするので、いろんな意見を入れてみて、前に座割しても、その方たちを優先に、後ろを歩くスペースは十分あるのかなと思うので、それも1つの意見として受けとめていただけたらと思います。

○教育長 ありがとうございます。

伊藤委員。

○伊藤委員 この間の北陸の震災で、今子どもたちが本当に苦しんでる。亡くなった方も結構多かったし、被災された方々が大変な窮状です。そういうのをテレビを見て、心を痛めてるんですけども、現実的に、例えば本市も含めて復興教育あるいは防災教育の学校での現状というのは、どのようになっているのでしょうか。もう東日本大震災が忘れられてしまっているのかなという、安易な雰囲気漂っているような状況もあるので、その辺も含めて、現状をおたずねしたいと思いました。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 毎年4月末日までに提出を求める教育課程届の中に、復興教育が位置づいております。内容としましては、「いきる かかわる そなえる」という復興副読本を用いた学習を引き続き取り進めておりますが、重点としては防災教育の方にだいぶシフトしてきたかなと思っております。一方で小学校は、もう完全に今年度から震災後に生れた子どもたちで構成されるような、そういう年月が経過したこともあって、つい先日の新聞に大学1年生が2割程度、復興教育を知らないという県内の状況にもなってきて、薄れているのはそのとおりだと思いますが、改めて今回の元日の地震は学校に復興教育の必要性を思い起こしていただきたい事案でありました。子どもの命を守るっていう意味で、今後ま

た力を入れて推進いただけるような、そんな呼びかけをしていきたいです。ありがとうございます。

○教育長 ありがとうございます。では、ほかにございますか。よろしいでしょうか。では、4のその他を終わります。

それでは、以上で第259回教育委員会定例会を終わります。

ありがとうございました。